

# サービス業

## 業況、売上、採算

今期（2020.7～9）の業況判断DIは▲46.6で、前年同期(2019.7～9)と比べ68.4ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

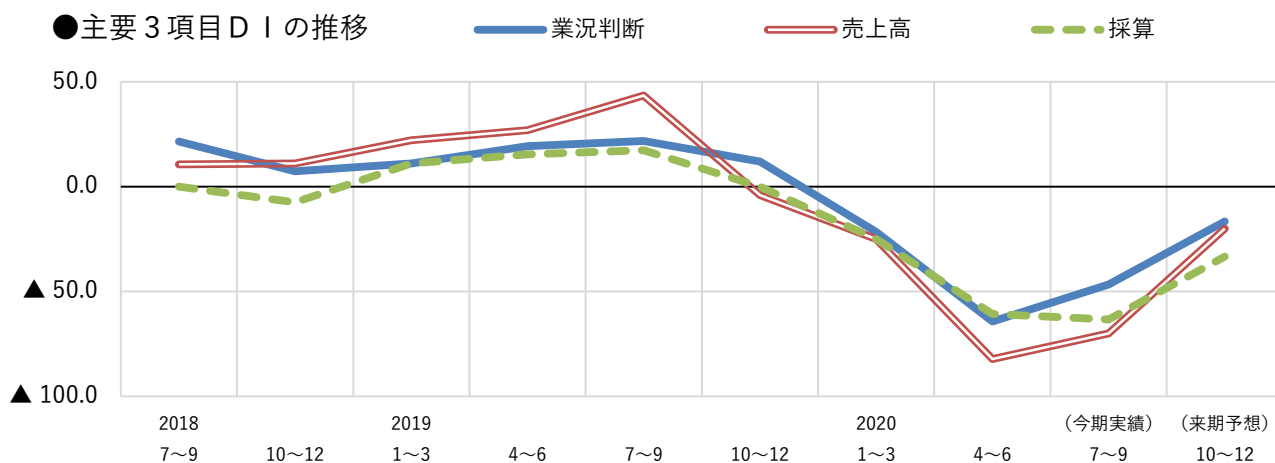
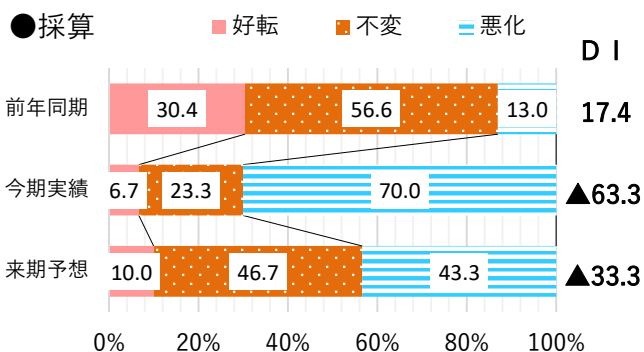
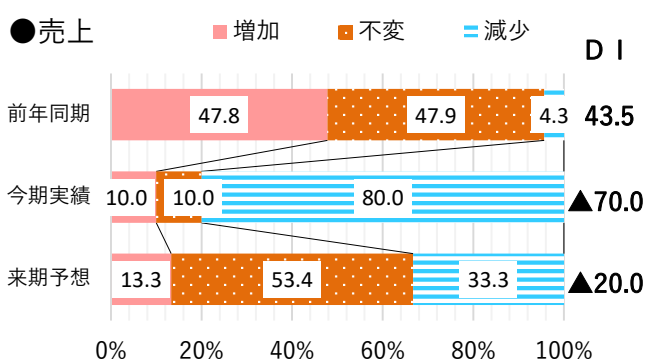
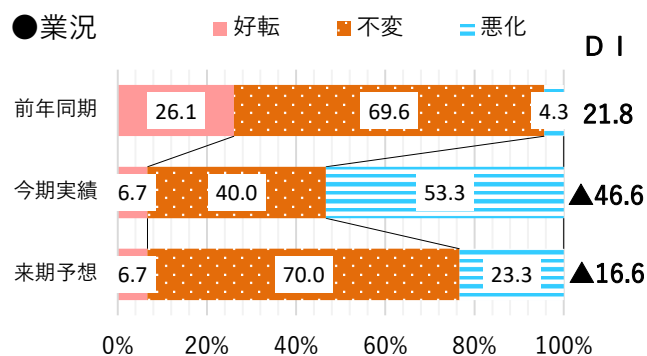
来期（2020.10～12）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上高DIは▲70.0で、前年同期と比べ113.5ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、売上の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲63.3で、前年同期と比べ80.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

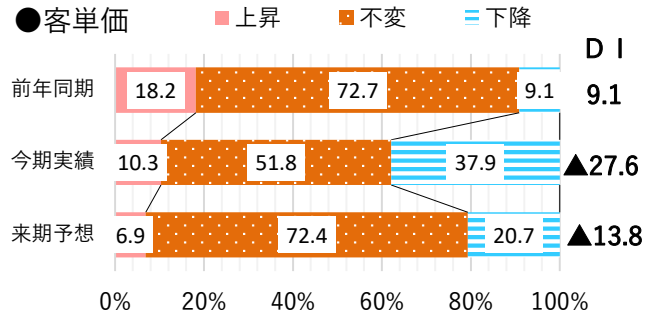
来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

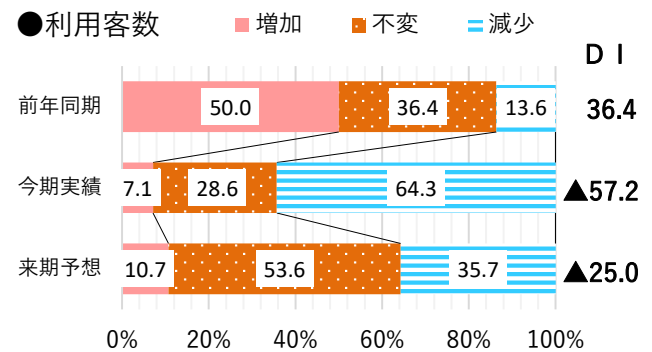
今期の客単価DIは▲27.6で、前年同期と比べ36.7ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



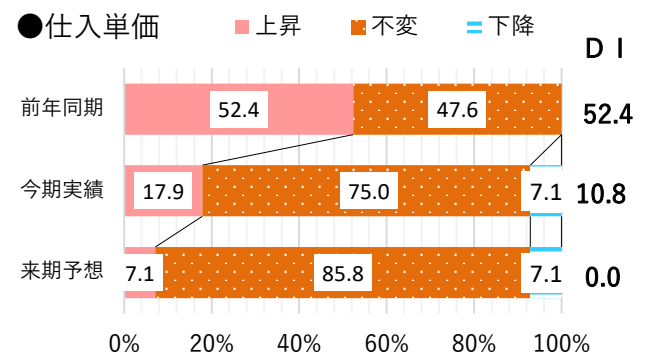
今期の利用客数DIは▲57.2で、前年同期と比べ93.6ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、利用客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは10.8で、前年同期と比べ41.6ポイント低下し、大幅に下降しました。

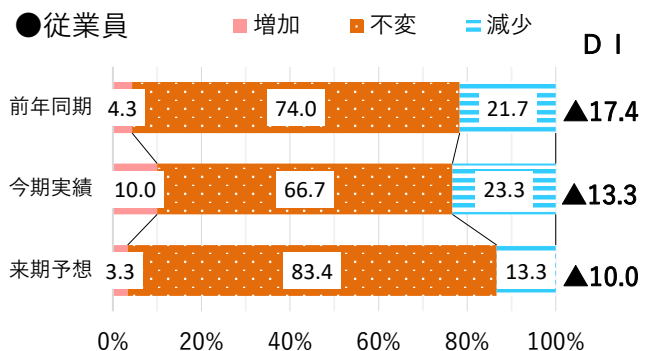
来期は、仕入単価の上昇傾向が落ち着くと予想しています。



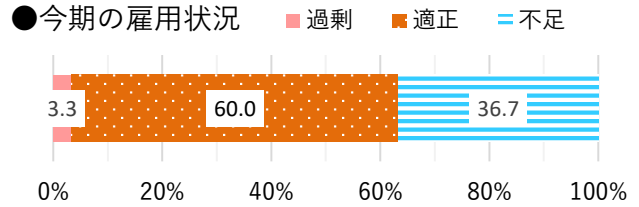
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲13.3で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.3%、適正であると回答した企業の割合は60.0%、不足していると回答した企業の割合は36.7%でした。



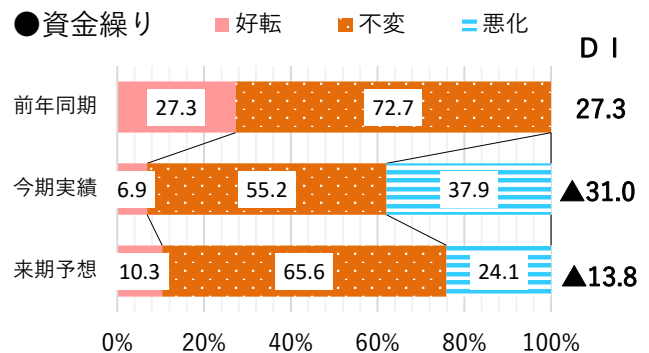
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の40.0%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	4

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

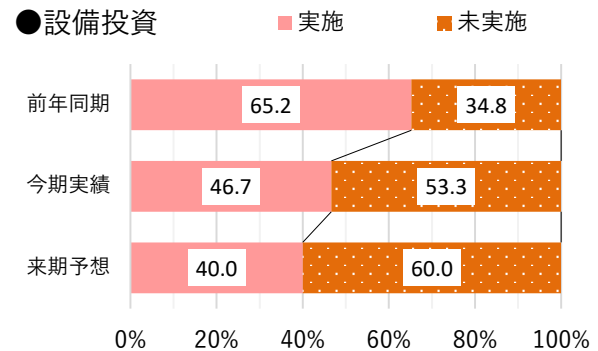
### 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲31.0で、前年同期と比べ58.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。



来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

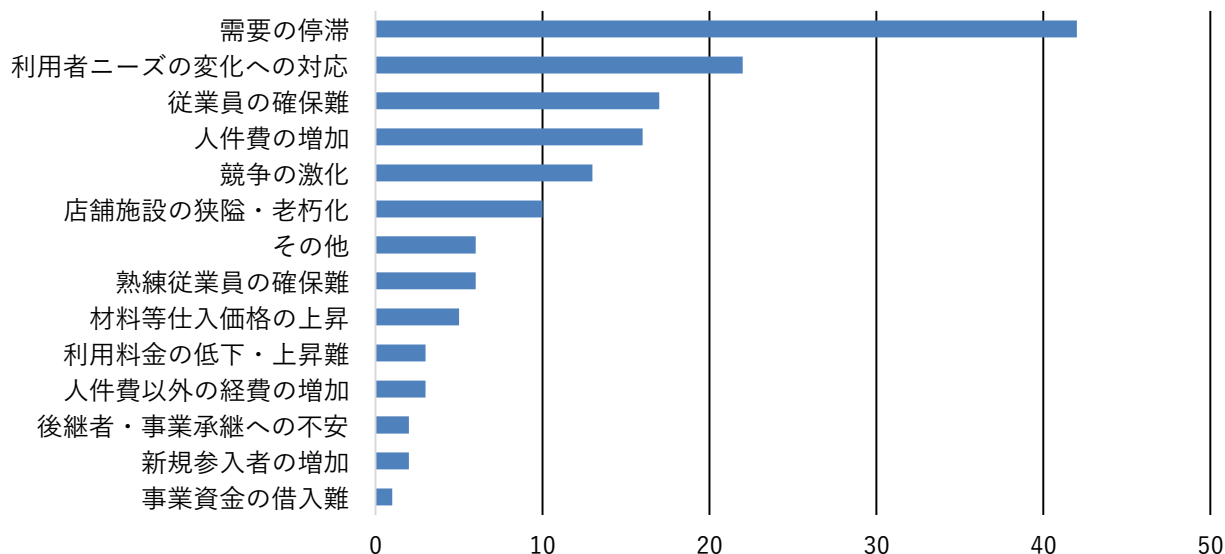
設備投資を実施した企業の割合は46.7%で、前年同期と比べ18.5%減少しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は40.0%で、減少を予想しています。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの影響は思いの外根深く、市内で発生したクラスターによる客数減少が業況を大きく悪化させた。土日祝日は観光客によって下支えされているが、平日の落ち込みは緊急事態宣言時とほぼ変わらない。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの影響で、外国人客はほぼゼロとなった。本州からの来客は増加傾向にあるが、前年同期と比べるととても少ない。当分は地元客と道内客がメインになるとと思われる。(飲食店)
- 駐車場利用台数は回復傾向にあるものの、昨年と比べ利用時間が短くなっている。(ビルメンテナンス)
- 新型コロナウイルスの影響によって売上が減少している品目と増加している品目があり、トータルで売上の水準を維持している状況である。(各種物品賃貸業)
- 新型コロナウイルスの影響で、修学旅行と道内の宿泊以外は何もない状況である。(旅行代理店)
- 新型コロナウイルスの影響で、予約のキャンセルや利用客数の減少が生じている。消費税増税があったため、仕入価格は上昇した。人材、賃金の状況は変わっていない。(美容業)
- 新型コロナウイルスの影響で、7月まで予約のキャンセルがあったが、8月以降回復傾向にある。雇用調整助成金により、雇用を確保できた。(スポーツ施設)
- 前年同期比で客数が60%減少し、材料費が20%上昇した。(写真業)
- 行事や宴会等人の集まりが減少したため、売上が減少した。(写真業)
- 新型コロナウイルスの影響で業況が悪化した。利用客数は減少したが、仕入価格は不変だった。人材不足が課題である。(出版業)
- 客数に変化は無いが、客単価が上昇した。(不動産代理・仲介業)
- 契約内容の変更により売上額が減少した。(保険業)

### [来期の業況について]

- 業況の好転は期待できない。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの影響は続くが、医療関連のビジネスを行っているため、売上が見込める品目に力を入れる。人件費の増加が見込まれる。(各種物品賃貸業)
- 新型コロナウイルスのワクチンが開発されなければ、大きな回復は難しいと思われる。(旅行代理店)

- 新型コロナウイルスが流行する状況であっても、安心して来店できる取り組みが浸透しているため、現状より悪化することは無いと思われる。（美容業）
- 利用者数の更なる増加を見込む。新型コロナウイルス対策に取り組む。（スポーツ施設）
- インバウンドの減少とイベントの縮小が続き、厳しい状況が予想される。（出版業）
- 好転は期待できない。（出版業）
- 社員数が変わらなければ、今期と同様の状況が予想される。（不動産代理・仲介業）
- 市場の開拓により業況は好転すると思われる。（保険業）